

平成26年度 修学生の集い開催報告

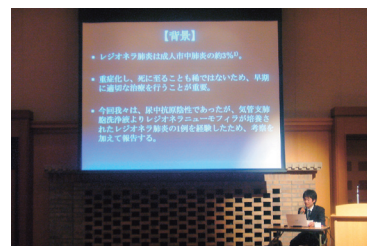
茨城県では、昨年12月27日に3回目となる「修学生の集い」を開催しました。

3部構成で実施し、第1部では、修学生医師及び自治医科大学卒業医師による症例発表会を行いました。参加者からは「研修医の方の発表、上級医との質疑応答で、茨城県の医療の問題がみえてきて、とても面白く、モチベーションが上がりました。」「自分の生まれ育った地域を守る」という意識が感じられるプレゼンを見ることができ、とても有意義でした」などの意見をいただきました。

第2部の講演会では、小惑星探査機『はやぶさ』プロジェクトのプロジェクトマネージャーを務められたJAXAの川口淳一郎教授を講師として迎え、若手医師・医学生へのメッセージをいただきました。

第3部は交流会を行い、県内医療機関の病院長、指導医、地域医療支援センターキャリアコーディネーター、教育インストラクター、キャリア相談員、地域枠大学協力員、医学生と、幅広い年代の方に参加いただき、コミュニケーションを図ることができた大変意義のある時間となりました。

今後も年に1度開催してまいりますので、ぜひご参加ください。



症例発表会での一コマ



表彰式での一コマ

プログラム

〈第1部〉症例発表会 ※2会場で同時進行

・症例発表

〈第2部〉記念講演

「はやぶさ」から伝えたい、創る力の育て方
独立行政法人宇宙航空研究開発機構

シニアフェロー

宇宙飛翔工学研究系

教授 川口 淳一郎 氏

〈第3部〉意見交換会

・先輩医師からのメッセージ

・講評及び表彰

・懇 談



交流会の様子

症例発表会（※順不同）

テーマ	発表者
54歳男性 重症肺炎の一例	水戸医療センター 田中 尚
成人インフルエンザ脳症の一例	水戸済生会総合病院 高村 慎太郎
消化管原発 悪性黒色腫の一例	水戸協同病院 鈴木 愛美
熱源特定に苦慮した認知症患者の一例	自治医科大学さいたま医療センター 山中 由里香
可逆性後白質脳症を呈した透析導入患者の一例	水戸済生会総合病院 郡司 真誠
貧血の精査にて発見された胸腺腫の一例	茨城県立中央病院 戸塚 翔
尿中抗原陰性で気管支肺洗浄液よりレジオネラニューモフィラが培養されたレジオネラ肺炎の1例	日製日立総合病院 田地 広明
巨大感染性肝嚢胞の1例	茨城県立中央病院 柳橋 進
血小板減少と乏尿を伴い重症化したペロ毒素陰性病原性大腸菌O-157感染の一例	水戸済生会総合病院 宗像 紅里
食思不振を主訴に来院した63歳男性の一例	北茨城市民病院 加藤 夏樹
糖尿病性ケトアシドーシスで発症した1型糖尿病を経験して慢性心不全の経過中に肺障害が増悪し、死亡した1例	茨城県立中央病院 仲田 真依子
ACE阻害薬で急性腎不全を呈した高血圧の一例	日製ひたちなか総合病院 横倉 俊也
ACE阻害薬で急性腎不全を呈した高血圧の一例	水戸済生会総合病院 椎名 映里
茨城の地域医療を考える	水戸赤十字病院 金野 直言
糖尿病治療再開後に糖尿病性舞踏病を呈した2型糖尿病の1例	水戸協同病院 熊谷 亮
DKAを繰り返す1型糖尿病の1例	水戸済生会総合病院 淵野 玲奈
CTで右側結腸の著明な壁肥厚を示し、HUSを発症した高齢者O157感染症の1救命例	常陸大宮済生会病院 窪木 大悟
夜間救急当直で経験した1例	水戸医療センター 小林 賢司
急性膵炎に伴ったsubcutaneous nodular fat necrosisの一例	茨城県立中央病院 角 総一郎
2013年度鹿行地域CPA事案検討	なめがた地域総合病院 小田 有哉

「教えることによって自分も学ぶ、そういうシステムができ上がっていることが印象深かったです」～平成26年度指導医団国外派遣事業に参加して～

平成26年11月18日から26日にかけて、ハワイで開催された指導医団国外派遣事業に参加された徳永千穂先生にお話をうかがいました。

…ハワイ研修に参加された動機は？

筑波大学の6年生の時に、カリフォルニア大学で病院実習を行う機会があったのですが、実習先の先生にとってもよく教えていただきました。アメリカで学んですごく勉強になったという経験があったので、今回、アメリカの医学や教育の仕組みを勉強して、茨城や日本で役に立てることができないかと考え、ハワイ研修に応募しました。

…研修で印象に残ったことは？

いくつかありますが、ひとつは臨床教育や医療教育の面で、先輩が後輩に責任を持って教えるという仕組みができていることが素晴らしいと感じました。教えることによって自分も学ぶ、そういうシステムができ上がっていることに感銘を受けました。

もうひとつは、‘教える’ということについてです。日本語ではteachとよく訳されますが、これは与えるもしくは一方通行的な知識のやり取りというイメージであり、そうではなく“自分自身で学んでもらえるようにガイドすることが上級医の役割だ”とおっしゃってcoachやfacilitateという言葉を使っていたのが印象深かったです。これは、今後の教育に生かしたい概念だなと思いました。

●地域に根ざした医師を育てていました。

…日本との大きな違いはありましたか？

おそらく、筑波大学の創設時から当時の先生方がアメリカなどをモデルにして作っていたのではないかなと思うのですが、特に外科レジデントでは比較的こういったアメリカのレジデントシステムに近い、上級医が下級医を教えるという教育システムができています。ただ、それがより徹底されており、きちんと下級医を教育することにより上級医の実力も認められて、さらに上のステップに進むことができるという仕

筑波大学附属病院
心臓血管外科医師 徳永 千穂



組みができているのは合理的だなと思いました。

それから地域医療についても違いを感じました。茨城県でも医師不足が問題になっていますが、長期に地域医療に関わってくれる医師を育てるのが難しいという状況もあります。ハワイで開業されている先生方に、アメリカのように、非常に広大で田舎もたくさんあるところで、どのように地域医療にたずさわる医師を確保しているのですかと伺ったところ、アメリカで医学部に入ることは非常にハードルが高いため、元々医学部の学生さんというのは地域の代表だという思いが強い傾向があるので、出身の地元に戻っていく先生も比較的多いということでした。特に今回お話を聞いたファミリープラクティスという家庭医学では、自分の地元に戻り地域医療を続けていく先生もある程度確保できているのではないかなというお話でした。これは二人の先生にしか聞いていないので、全体のことかどうかはわかりませんが、やはり地域に根ざした医師を育てるためには、成績がいいから医師になるということではなく、医師になって地域にまた戻ってきたいというモチベーションや責任感を持ってもらうような教育が必要なのかなと思いました。

…ハワイは地域医療が先進的なのですか？

ハワイは島国で、医師も不足していたため、自分たちの地域で

医師を育てる必要があるということで、ハワイ大学医学部を作ったそうです。島国ですから地域医療の最たるところであり、さらにハワイ諸島以外の離島の医療も支える必要があるため、やはり地域医療には力を入れているようです。また、例えば重症な小児心臓手術などはハワイではできないため、アメリカ本土に送るしかないそうですが、対応した高度な搬送システムが確立されているようです。地域医療には搬送技術も重要なのだと感じました。

…先生ご自身のことをお聞かせください。

小学生の頃に、父の仕事の関係で東京からつくばに引っ越してきました。それからずっとつくばで育ち、地元の茗溪学園高等学校を卒業して筑波大学に進学、研修もそのままずっと筑波大学で行いましたので、ほぼ茨城県育ちということになります。

私は心臓血管外科医なのですが、小さい頃から私の中ではなぜか医者＝外科という図式がありましたので、中学生頃に医学部を志した時点で外科医になりたいと思っていました。

…心臓血管外科医は女性にはハードなお仕事なのでは？

そうですね、筑波大学は比較的新しい大学で、私が外科に入る時点でも女性の先輩はまだ数名でした。ただ、心臓外科には優秀な女性の先輩方がいらしゃったので、抵抗なく受け入れていただきましたし、女性だからという壁はあまり感じませんでしたね。

心臓外科の手術は長時間に及ぶこともあるので、体力を心配される方もいますが、女性でも男性より体力がある人もいますし、体力や気力の面で決して劣っていないのではないかと思います。

●患者さんとともに頑張ってこそ乗り越えられる。

…医師としての仕事のやりがいとは？

やはり患者さんによくなってもらうのが一番うれしいです。特に心臓の手術という選択をすることは、患者さん自身もものすごく大きな決心をされていると思います。手術がうまくいって、患者さんが元気になって、手術をして良かったと言ってもらえるのが一番うれしいですね。手術を乗り越え、病気をよくするというに関しては、患者さんにも頑張ってもらわない

とできないのです。良い結果というのは、一緒に頑張ってきてきた結果なので、そういうところに一番やりがいを感じます。

…指導医としての今後の展望は？

心臓外科の手術は、多くの人の協力がないとうまくいかないもので、ある程度中心部にあって、医療の体制が整っているところでないとなかなかできない仕事です。そのため、直接地域医療に結びつく科目ではないかもしれませんが、心臓疾患というのは重篤な疾患になりますので、一緒に勉強させていただいた若い先生にそういった疾患のことを知ってもらって、その先生方が地域に行った時に、的確に手術の必要性の判断をしていただけたらと思います。手遅れになると命に関わる病気が多いので、そういった疾患について理解を深めてもらって、密にコンタクトを取っていけるといい。若い先生方が地域の最前線で診ながら、困ったらいつでも相談してもらえるようなそういった体制を作っていきたいです。

もうひとつは、私も今回、海外に行く機会をいただきましたが、外国に興味を持っている若い先生たちも沢山いるようなので、そういった先生方が、つくばや茨城県からどんどん勉強に行って、また学んだことをつくばや茨城県に還元してもらう、そういった教育体制を作るために、少しでも協力できればいいなと思っています。

●広い世界に目を向けて、その成果を茨城の医療に還元してほしい。

…若手医師や医学生へのメッセージをお願いします。

茨城県の地域医療といっても、今回のように海外に行って勉強したり、ほかの地域に研修に行ったりと、茨城県の地域医療を勉強しつつ、広い世界にも目を向けて外で学んだことを茨城県に還元できる、そういう仕組みができればいいなと思っています。地域医療が狭い世界で完結してしまうのではなく、外に向かって勉強しながらどんどん新しいものを取り入れて、茨城県の医療がよりよくなるように取り組んでもらいたい。茨城県から世界に発信することもできるだろうし、そこから何かを得てまた進歩することもあるだろうし、とてもやりがいのある仕事だと思います。

病院紹介コーナー

総合病院土浦協同病院

当院の臨床研修プログラムの特徴は、基幹病院ならではの豊富な症例と、大学病院にも劣らないあらゆる診療科の指導医を有する点です。標榜診療科が28あり、医師数（研修医をのぞく）は170名程度になりますが、診療科間の連携がとても良く、ほとんどの症例が自院で治療を完結します。フル電子化した病歴システムを閲覧することにより、受診から治療後までの全経過を知ることができ、量だけでなく質の高い研修を行うことができます。早くから救急診療の経験を積むことができるよう、1年目の7月からローテーション先の本当直に入ってもらっています。研修医の単独診療にならないよう指導を徹底しています。例えば内科当直はsenior当直、junior当直、研修医の3名体制ですが、senior当直、junior当直のどちらかが必ず研修医の皆さんと一緒に診療、指導してくれます。当院は協力型研修病院として東京医科歯科大学、筑波大学などから禪がけ研修医を受け入れており、当院採用の研修医を併せると常時30名以上の初期研修医がいます。励ましあい切磋琢磨し、楽しく過ごすことができます。基幹病院と大学病院の長所を併せ持った当院の初期研修にぜひお越しください。



（副院長 田澤 潤一）

Relay Essay 研修医リレーエッセイ

水戸赤十字病院
初期臨床研修医 金野 直言



研修医がわずか1～2人という水戸赤十字病院に来て、早いもので2年の初期研修が終わりを告げようとしています。ちゃんとした研修が受けられるのだろうかと、恐る恐る始まった研修でしたが、指導医独占状態で、楽しく研修ができました。しかしながら、振り返ってみると、2年前から大きく成長できたと実感する一方で、願っていたようには成長できていないと反省する点が見えます。また同時に、この2年の間に経験した医師としての喜びや苦い経験を思い出します。

昨冬、小児科研修中に入院していたインフルエンザ患儿が痙攣をおこし、オーベンとともに訪室し処置を行っている最中に、目の前で心肺停止となり亡くなったことは、強く記憶に残っています。インフルエンザ脳症でした。その時には、小児の緊急時にどのように対応するべきか知識がなく、ただオーベンの指示に従って処置を行いました。同じことがあったらどうすべきか、どうしたら助けることができたか、とその後何度も何度も症例を思い返し、頭の中でシミュレーションしました。もちろん、この患者さんをもう一度治療させてもらうことは叶いませんが、今シーズンもう一度わがままを言って小児科研修をさせていただきました。その間にインフルエンザ脳症とその疑い患者、合わせて2症例を経験し、無事に退院を見届けることができ、一つ山を乗り越えられたような気持ちです。

これから専門をもっていく中で、また多くの経験があるかと思いますが、すべての患者さんに最善の医療を提供できるように全力を尽くしていこうと思います。

臨床研修病院 病院見学対応状況

	医療機関名	見学時間	対象	宿泊	問い合わせ先
1	水戸赤十字病院	随時(平日)	5～6年生	近隣の宿泊施設を紹介	担当者:企画課 小松崎 TEL:029-221-5177(内3155) e-mail:kikaku@mito.jrc.or.jp
2	水戸協同病院	随時(平日)	全学年	学生用宿舎に宿泊可能 (要確認)	担当者:庶務課 医局秘書 福家 TEL:029-231-2371 e-mail:residency@mitokyodo-hp.jp
3	水戸済生会総合病院	随時	全学年	院内施設に宿泊可能(無料)	担当者:総務課 山本 TEL:029-254-5151 e-mail:resident@mito-saisei.jp
4	水戸医療センター	随時(平日)	5～6年生	可能(無料) 院内の施設宿泊可能	担当者:教育研修部長 廣瀬一郎 TEL:029-240-7711 e-mail:i.hirose.d@mn.hosp.go.jp
5	茨城県立中央病院	随時(平日)	全学年	院内宿泊施設利用可 (応相談)	担当者:臨床研修センター 鶴井、田口 TEL:0296-77-1121(内線5777) e-mail:kenshu@chubyoin.pref.ibaraki.jp
6	(株)日立製作所日立総合病院	随時(平日)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者:総務グループ 石井 TEL:0294-23-1111(内線4234) e-mail:saiyou.nichibyo.nx@hitachi.com
7	(株)日立製作所ひたちなか総合病院	随時(平日)	4～6年生	院内施設に宿泊可能 ※場合により近隣宿泊施設を紹介	担当者:事務局総務係 渡辺 TEL:029-354-6841 e-mail:akihiro.watanabe.vr@hitachi.com
8	土浦協同病院	随時(平日)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者:庶務課 飛田、中島 TEL:029-823-3111 e-mail:general@tkgh.jp
9	独立行政法人国立病院機構 霞ヶ浦医療センター	随時	全学年	可能(無料) 院内の施設宿泊可能	担当者:臨床研修担当 TEL:029-822-5050 e-mail:201sy01@hosp.go.jp
10	筑波記念病院	随時(平日)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者:臨床研修担当 古矢 TEL:029-864-1212 e-mail:furuya@tsukuba-kinen.or.jp
11	筑波大学附属病院	随時(平日)	全学年	可能 学内宿泊施設等 料金:2,500円～3,000円	担当者:病院総務部総務課(教育支援) TEL:029-853-3516、3523 e-mail:kensyu@un.tsukuba.ac.jp
12	筑波メディカルセンター病院	随時(平日)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者:総務課 谷田部 TEL:029-851-3511 e-mail:kensyu@tmch.or.jp
13	筑波学園病院	随時(平日)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者:経営企画室 笹島 TEL:029-836-1286(内線2341) e-mail:kei-kikaku@gakuen-hospital.or.jp
14	東京医科大学茨城医療センター	随時(平日)	全学年	可能(無料) 研修医の宿舎に宿泊可能	担当者:卒後臨床研修センター TEL:029-887-1161(内線1490) e-mail:ksotsugo@tokyo-med.ac.jp
15	牛久愛和総合病院	随時(平日)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者:人事部 野中宏修 TEL:029-873-3111 FAX:029-874-1031 e-mail:nonaka@jojinkai.com
16	つくばセントラル病院	随時(平日・土)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者:経営企画課 久松辰男 TEL:029-872-1771 FAX:029-874-4763 e-mail:tatsuo.hisamatsu@central.or.jp
17	JAとりで総合医療センター	随時(平日)	5～6年生	近隣の宿泊施設を紹介	担当者:前田益孝 TEL:0297-74-5551 e-mail:toride@medical.email.ne.jp
18	総合守谷第一病院	随時(平日)	5～6年生	近隣の宿泊施設を紹介	担当者:佐川俊英 TEL:0297-45-5370 e-mail:sagawa@moriya.daiichi.or.jp
19	友愛記念病院	随時(平日・土)	5～6年生	遠方者には宿泊先を提供	担当者:労務・人事課 稲見 TEL:0280-97-3000 e-mail:yuai@yuai-hosp-jp.org
20	茨城西南医療センター病院	随時(平日)	全学年	可能(無料) 研修医の宿舎に 宿泊可能(要確認)	担当者:庶務課 西原 TEL:0280-87-8111 e-mail:shomuka@seinan-mch.or.jp

茨城県からのお知らせ

修学生・修学生医師およびi-doctorご登録住所の確認について

いつも「いばらきの地域医療」をご愛読いただき誠にありがとうございます。

修学生・修学生医師およびi-doctorご登録で本誌郵送を希望されている方におかれましては、勤務先の変更や転居により送付先住所に変更がございましたら「茨城県地域医療支援センター」(下記)までぜひご連絡ください。新しい住所へお届けします。

なお、i-doctorご登録情報の変更については、地域医療支援センターホームページ内の「i-doctorお申込受付」でも承っております。よろしくお願いいたします。

茨城県地域医療支援センター

茨城県水戸市笠原町978番6(保健福祉部医療対策課内) TEL:029(301)3191

<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/isei/ishikakuho/top/index.html> E-mail:i.doctor@pref.ibaraki.lg.jp